

エコ近畿

身近な自然が保全・再生され、人と自然が共生する豊かな都市環境が形成されます。

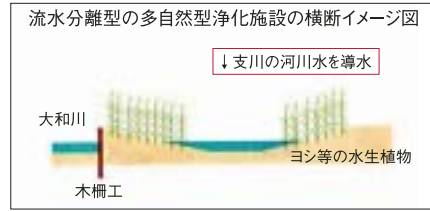
子どもたちが水しぶきをあげ、いきいきと遊べる大和川

1 大和川の水環境再生（清流ルネッサンスⅡの推進）

水環境の悪化が著しい河川等において、地元市町村等と河川管理者、下水道管理者及び関係者が一体となって水環境改善施策を総合的かつ重点的に実施します。大和川においては、依然として環境基準を達成していない地点があり、「清流ルネッサンスⅡ」の取り組みを引き続き推進します。



大和川フォーラム第二部大和川サミット 平成18年9月10日



平成19年度の事業計画

大和川の水環境改善を目指すとともに、一斉清掃、「生活排水対策の流域一斉社会実験」、グリーンキャンペーン等、住民との連携による取り組みを進めます。

「魚庭(なにわ)の海」再生へ

2 大阪湾再生プロジェクトの推進

「人と海との関わり」の再生



環境学習を展開
地元小学生が育てたアマモ（海草）をボランティアのダイバーらが大阪湾に移植



写真：城者氏

多様な生物の生息・生育空間の確保



堺泉北港
堺2区地区 干潟（イメージ図）
大和川河口の堆積土を利用し、干潟を造成

水質の改善



↑合流式下水道の改善（「平成の太閤下水」など）
河川による浄化事業→東除川（薄層流浄化）など

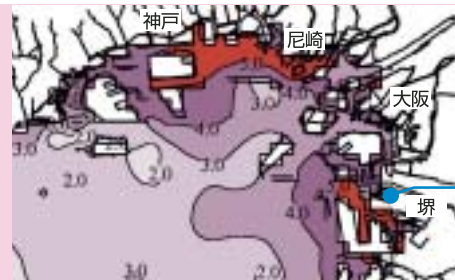
浮遊ゴミの削減



↑海洋環境整備船によるゴミ回収
ゴミの回収状況→

「大阪湾再生行動計画」に沿って、国や自治体等の関係機関が連携し、森・川・海のネットワークを通じて、美しく住みやすい豊かな「魚庭(なにわ)の海」を回復し、市民が誇りうる「大阪湾」創出を目指します。大阪湾の集水域および海域で各種の改善策を実施。モニタリング調査により効果を把握します。

湾奥部における集中的な取り組み



水質汚濁の改善が難しい湾奥部において集中的な取り組みを開始



「堺浜」で人工干潟実証実験を開始

シミュレーション結果からも湾奥部には水質汚濁が残る（赤い範囲）

平成19年度の事業計画

堺浜（堺2区）での人工干潟、尼崎港での水質浄化等の各種検証実験。市民参加による取り組みを推進。大阪湾環境データベース等を活用した情報基盤による共有化。



自然空間と親水空間の回復・創造

3 琵琶湖・淀川流域圏の再生計画の推進～水でつなぐ「人・自然・文化」～

「琵琶湖・淀川流域の再生計画」に基づき、「水でつなぐ「人・自然・文化」」を基本コンセプトに、流域圏のあらゆる関係機関が連携して具体的な行動を展開していきます。

一体となって取り込むべき5つの連携テーマ

みずべプロムナードネットワーク

琵琶湖・淀川流域圏の水辺を、舟運・サイクリング・ウォーキングなどで周遊できる水辺のネットワークを構築。



淀川左岸でのウォーキング大会



舟運イベント（蘇れ!!淀川の舟運）

流域連携

地域間・主体間・分野間で連携した一体的な取り組みを継続性のあるものとする。

水辺の生態系保全再生・ネットワーク

多彩な生態系を保全再生するため、希少種などの在来種の保全を視野に入れ、生息・生育環境を保全再生。



柴島地区干潟再生実験



河川内の連続性確保（天野川落差工の改良）

流域水環境再生

流域が一体となり、豊かな水を育む森林・農用地の保全及び再生や、河川や湖沼の水質改善、安定した水量の確保を図り、健全な水環境を実現。



田上山百年の森作り



「流域ミュージアム」案内所

平成19年度の事業計画

連携テーマについて、情報共有化を図り各事業を進めます。

コウノトリも共生する河川環境

4 自然と共生する川づくりの推進

コウノトリも共生する河川環境の再生（円山川）

平成17年9月より始まったコウノトリの試験放鳥など官民が一体となった様々な保護運動が展開されています。また、流域住民が連携してビオトープづくり、里山整備、環境創造型農業等に取り組まれています。円山川では、多様な生物の生息・生育環境の整備としてコウノトリも共生する河川環境を目指した川づくりを進めます。



湿地再生のイメージ



再生した湿地の利用状況

平成19年度の事業計画

湿地等のモニタリングを継続するとともに、平成17年11月に策定された「円山川水系自然再生計画」に基づき、湿地を保全・再生・創出します。

5 瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の活動

平成3年より、瀬戸内海沿岸の各地域が連携し更なる振興と発展を図るために、瀬戸内海沿岸の107市町村（平成18年10月1日現在）、11府県、国土交通省9地方機関が参加し、さまざまな取り組みを行なっています。

主な取り組みである「リフレッシュ瀬戸内」は、海浜の清掃活動という「誰もが参加しやすい活動」を通じて「美しい瀬戸内を守っていく」ことを参加者をはじめとする多くの人々に訴えていくことを目的としたものです。

平成5年から平成18年までの14年間に、延べ139万人のボランティアの皆さんの参加で、約14,300トンものゴミを回収しています。また、平成16年度からは、「瀬戸内 川と海のクリーンアップ大作戦」～瀬戸内の生命(いのち)育む川と海～をテーマに、海と川の連携実施に取り組んでいます。



海浜の清掃活動状況（洲本市）

平成19年度の事業計画

今後は、同様な活動を行っている団体等との連携も図り、美しい瀬戸内の海を守るため、より多くの人々に啓発できる取り組みへと発展させていきます。